

No.167
2025/9/30



岐阜大学職員組合発行

〒501-1193 岐阜市柳戸 1 番 1
Tel. 内線 9552 Fax 058-230-1118
E-mail: kumiai@gifunion.sakura.ne.jp
HomePage: 岐阜大学職員組合 (検索)

第 41 期団体交渉の結果について

団体交渉を行いましたので御報告申し上げます。2025 年 6 月 16 日付で団体交渉申入書を提出し、7 月 24 日に事務との予備交渉を行いました。予備交渉の結果に基づき中央執行委員会で再度団体交渉での要求事項を検討し、8 月 7 日付で再度団体交渉申入書を提出しました。その後、遅くなりましたが、本交渉を 9 月 18 日に行った結果は、以下のようになりました。残念ながら、本部側からは学長先生はお見えになりませんでした。杉山副学長が、要求事項に関連する部署からの事務の方々とともに出席いただいております。組合の方からは、現執行部 4 名と次期執行部 2 名を含む総勢 9 名が出席致しました。要求事項は以下の通りでした。

1. 年俸制適用職員の対象者について
任期なし教員として採用および契約更新される教職員に対し、本人の意思に基づき、年俸制か月給制かを選べるようにすること
2. 教員の新規採用人事について
優秀な人材確保および人事にかかわる教職員の労務負担軽減のため、教員の新規採用人事にかかわる決定の時期を早めること
3. 自家用車使用に際する自費負担軽減
通勤や出張等の大学業務において職員が自家用車を使用する場合に支払われる手当について、職員の自己負担が発生しないようにすること
4. 非常勤講師の待遇改善について
全学共通教育および各部署で授業等を担っていただいている非常勤講師の方の待遇改善および業務にかかわる環境整備を促進していくこと
5. 各種研修にかかわる情報（とりわけ E-learning）の一元化
部署ごとでバラバラに実施されている各種研修について、全体の情報を集約し、一元的に発信・実施できる体制を整備すること

交渉結果は以下の通りでした。

1. 年俸制適用職員の対象者について

- >月給制と年俸制の給与の差は、今は無くなっている。退職金も同額である。
- >国の方針で年俸制の教員を増やす方向で動いているので、新規採用の公募では、全て年俸制で募集している。
- >年俸制では6年ごとに関門評価を行い、給与を決めている。
- >理事会で決めたことから、年俸制を採用している。
- >年俸制から月給制へ移行できるシステムは採用していない。
- ◎年俸制から月給制へ移行できるシステムをつくることはしない方向のようでした。
- ◎交渉終了後、年俸制への移行を決定した役員会の資料を、事務よりいただきました。
- ◎今後月給制も選択できるように要求するためには、年俸制と月給制の給料の差、年俸制を採用するメリット（大学側と労働者側の両方）等、情報収集が必要と思われました。

2. 教員の新規採用人事について

- >特にボーダーになく検討が必要のない人事については、人事院勧告を待つことなく7月に人事委員会で決定をするよう改善がなされた。
- ◎要求を達成致しました。要求に対して適切な対応をいただいたので、感謝を述べました。

3. 自家用車使用に際する自費負担軽減

- >基本は公共交通機関を使用することとしている。ガソリン代の値上がり、保険料の問題（2重には車に保険がかけられない）を考慮に入れて検討を継続している。
- >自家用車による通勤手当の支給方法の改善を予定している。
- >自家用車の保険を2重にすることはできないことが判明している。
- >マイクロバス2台のうち1台故障中であるが、2台必要と思われるので、検討する。
- ◎種々検討をいただいています。実行されることを見守りたいと思います。
- ◎経費節減のためにはマイクロバスが必須であるので、2台利用可能な状態に早急に回復する（故障中のマイクロバスを修理して利用可能にしてほしい）ことを要望しました。これについては、検討をすることを約束いただいと理解しています。実行されることを見守りたいと思います。

4. 非常勤講師の待遇改善について

- >各学部非常勤講師の先生への待遇や環境などについて、適切にするように各学部へ申し伝える。
- >地域科学部は改修中のためコピー機の移動などを行っている。張り紙でお知らせすること、コピー機の設置について改善することを予定している。
- ◎改善を約束いただいたので、実行されることを見守りたいと思います。

5. 各種研修にかかわる情報（とりわけ E-learning）の一元化

>使用しているシステムや依頼元が異なるため、一元化は困難であるが、わかる範囲で年間スケジュールを作成して各教員へ配布することを予定している。

>e ラーニング等の情報整理については、名大でも議論になっている。

◎改善を約束いただいたので、実行されることを見守りたいと思います。

6. その他

要求事項にはなかった要望事項についても、お答えをいただけるとのことでしたので、一部出席した組合員から意見を伝え、以下の通り、真摯に回答をいただきました。

学費値上げについて

①学費値上げを考えていますか？-->経費対策の選択肢の一つとして考えている。

②困窮している学生がいるので学費を安くしてほしい-->社会全体で考えた方がいい課題と認識している。

テニュアトラック制度について

①昇給がないのでは？-->5年間の評価（6年ごとの関門評価）により次の年俸額を決めている。

②公募に応募される方が少なく、教員が少なく困っている-->SPRING など、大学院で奨学金を支給している等の対策により、博士号取得者を増やす努力をしているので、教員も増えると予測される。

技術職員のキャリアパスについて

大学全体で考えてほしい>全学技術センターの状況は理解しているので、重要な課題と認識している。

中央執行委員長 村瀬哲磨



岐阜県母親大会に出席しました

6月22日(日)美濃加茂市民会館かもーるにて開催されました。2025 第 67 回岐阜県母親大会に、久保組合員と共に出席いたしましたので御報告致します。

本大会は、岐阜県内の母親の方々が集まり、子どもの権利や平和などについて話し合いの場を設ける会と伺いました。今回は、組合宛に参加者の募集がありましたので、組合から応募し、組合の活動歴上で初めてになりましたが、委員長と久保組合員が参加いたしましたので、ご報告いたします。

午前中は10の分科会に分かれてそれぞれ異なるテーマでグループ討論会が開催され、我々は、第5分科会「障がいのある人が安心して生活できるために～学齢期まで・卒業してから～」に参加しました。東海学院大学の先生が座長をされ、各参加者の現況報告と抱えている問題点について、助言を行うとともに、グループ内でディスカッションを行いました。

午後は、記念公演が開催され、講師として東京大学大学院の鈴木宣弘先生が「深刻な日本の食糧～食料自給率向上は平和への道～」というタイトルでお話をされました。最後に、今回の大会としてのアピールを作成して終了いたしました。

参加してみて、このような大会があること、障害者の方々の諸問題を知ることができたこと、講演会では日本の食料事情が深刻であることなど、多くを学ぶことができました。

今後参加希望される方がお見えでしたら参加いただけますと、色々な勉強ができると思います。

以上ご報告いたします。

中央執行委員長 村瀬哲磨



久保組合員の参加の様子

機構長との懇談に参加して

先日初めて機構長との懇談に参加し、労働者が声をあげることの難しさと可能性を実感した。機構長は年上の男性で、参加者も男性が多く、小中学生の子どもを持つシングルマザーの私は当初、場違いな気がしたのだ。ケア負担をかかえる労働者の課題をどこまで理解をしてもらえるだろうかと、思い込みや戸惑いがあった。ただ懇談が始まると、賃金労働条件から機構の体制に関する問題まで、思いのほか、ざっくばらんに話が展開した。予算を理由に解決が容易でないとの回答もあったが、組織の長と直接話し合う機会はたしかに重要だ。

私も学費問題を伝えた。学生の中にひとり親世帯の出身者など経済的課題を抱える人や、「女の子」であることを理由に大学進学を反対されたという人がいるためだ。機構長からは「社会的弱者への支援について、岐阜大学で議論してくださいと、学長へ依頼する」との回答があった。

懇談で得たもう一つの気づきが、私が研究対象とするベトナム出身の技能実習生の強さだった。技能実習生が身体的・精神的暴力、パワハラ、妊娠理由の解雇などの問題に直面する事例が多数ある。いくつかの労働組合が技能実習生を支援しており、技能実習生が団体交渉に参加することもある。多くが債務を背負い、最低賃金水準の給与で働く技能実習生は不利な立場に置かれがちだ。それでも技能実習生はあきらめず、労働組合に入り、団体交渉、労働委員会、裁判などでたたかう。

懇談に参加しながら、会社の社長を前に堂々と、あるいは切々と主張をする技能実習生の姿がすぐに浮かんた。彼女・彼らの奮闘を見てきたつもりだったが、技能実習生にとって組織の長との交渉は想像するよりずっと胆力の必要なことだろう。私はあの技能実習生たちのように、言うべきことをしっかり言えただろうか。

教育学部支部 巢内尚子

全大教定期大会について

7月12日（土）に全大教第58回定期大会がオンラインで開催されました。定期大会は、例年、10時から17時までの終日を要する会議です。今回、岐阜職組からの代議員は中部ブロックの役割分担として、議事運営委員（議運）の役割が課されておりました。議運は定期大会の議事運営を担うスタッフです。そのため、二度に亘って、オンラインによる議事運営の打ち合わせがありました。その後、当日参加予定の代議員全員を対象に、オンライン採決の練習会がありました。全大教定期大会は、とても慎重な準備を経ての開催であることが印象的でした。今回、報告者は当日の大会に参加できず、天池洋介先生（地域科学部支部）に代議員の代理をお願いする事態となり、当日の議論の様子のご報告ができませんが、議事に対して細かな質問や変更を求めて積極的に参加する単組もあることが、準備に参加してわかりました。また、今大会では、全国の大学が授業料値上げについて反対運動などを行なっていることなどの状況がわかり、授業料値上げは、運営費交付金の問題と絡んで、これからの教職員組合の関心事の一つであると思われました。

今大会で中央執行委員長の2期目の続行が信任されました。全大教のHPに笹倉委員長（鳥取大学教職員組合）の挨拶が掲載されています（https://zendaikyo.or.jp/?page_id=28）ので、是非ご確認ください。なお、次期の全大教には、岐阜大学から天池洋介先生が中央執行委員として参加されます。岐阜職組では組合員の連帯と組織率向上を目指し、天池先生の全大教での活躍を支援したいと思います。

中央執行書記長 村瀬忍

サマーパーティを開催しました

7月25日 18:00から、柳戸農場にてサマーパーティを開催しました。毎年、サマーパーティは中央執行委員長の所属支部が主催するため、今年度は応用生物学部支部主催の、屋外でのバーベキューでした。雨天でも可能な農機具小屋という絶好で且つ広々とした場所で、33名の組合員とその家族がバーベキューグリルを囲みました。今年の夏は暑い日が続いたので、用意された冷たいビールも格別でしたが、とにかく美味しい食材がたくさん!! 肉や魚だけでなく、農場で収穫されたナス、トマト、キュウリなどの採れたて野菜は絶品でした。中央執行委員矢野様（応用生物学部支部）をはじめとして、準備にご尽力いただいた、応用生物学部支部の方々に改めて感謝申し上げます。コロナ以降、こうした会への参加が消極的になりがちですが、美味しい食べ物の前で心も和み、貴重な組合員の交流ができました。最後は、子どもたちが花火を楽しむ姿を見守り、日本の平和と岐阜大学の発展に尽力することを心に誓った(?) 組合員たちでした。

中央執行書記長 村瀬忍

